

(様式1)

平成32年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 37	提案機関名 川崎市
要望問題名 発酵鶏糞コンポスト堆肥の効果的な施用	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 養鶏の副産物としての鶏糞は発酵させコンポスト堆肥化し、二次製品として販売することで処分している。 しかし、耕種農家の間では、鶏糞コンポスト堆肥はC/N比が低く、リン酸、カリ、石灰の含有量が多いため、有機（土壌改良）資材としては使いにくいとの意見があり、近年、消費が伸び悩んでいるため、採卵鶏の飼養数にも影響している。 また、従来の粉状のものは風で飛散しやすく、畜産クラスター事業（機械導入事業）を活用して、ペレット化する計画が進んでいる。 これらのことから、鶏糞コンポスト堆肥に適した作目、施用方法、粉状とペレットの比較を試験・研究することにより耕種農家の耕作地の地力増進を図るとともに、消費拡大により、養鶏副産物の円滑な処分と販売収入増加による経営の安定化を図ることを目標にする。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 ①農業技術センター土壌環境研究課 主任研究員 竹本氏に相談中 ②県・市で分担し共同研究の想定。R1年度は予備試験実施予定。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部 土壌環境研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) IX-1 (1) 有機物由来肥料成分の評価法の確立			
対応の内容等 鶏糞堆肥（コンポスト）については、記載されているように肥料成分のバランスが偏っているため、単独で使用した場合、土壌の養分バランスが崩れるなどの懸念があります。このため、使用に際しては、他の資材と組み合わせた使用が必要と考えられます。現在、農水省より以下のような化学肥料と堆肥を混合して供給することを認める通知（※）が発出されていますので、これらを考慮した省力的な地域内流通に適する鶏糞堆肥の使用方法を上記課題の中で実施します。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考（※）肥料の施用者委託配合に関する通知（平成31年3月29日） http://www.maff.go.jp/j/syoutan/nouan/kome/k_hiryo/seiyoutaku.html			